

『広橋家旧蔵記録文書典籍類目録稿』作成の狙いと仕様・凡例

【『広橋家旧蔵記録文書典籍類』について】

広橋家は藤原北家内麻呂流諸家のひとつで、兼光の子頼資〔1202 ～ 1236〕が鎌倉時代前期にたてたイエです。

└資実（日野・日野西・裏松・烏丸・武者小路・柳原・土御門・町流祖）  
日野兼光└頼資（広橋流祖）—経光—兼仲—光業—兼綱—仲光—兼宣—兼郷—  
└綱光—兼頭—守光〔日野町広光実子〕—兼秀—国光—兼勝

頼資の兄資実を流祖とする日野流諸家と同じく、広橋家は太政官の命令書発行部門である弁官局の幹部を経て蔵人頭となり、公卿に昇るイエです。事務官・議政官の面と儒者の面とを兼ね備えています。戦国期にも「小番衆」として朝廷を支え、近世に至ります。

鎌倉時代には頼資・経光・兼仲・光業が摂関家近衛・鷹司両流の家司・家礼の地位を兼ね、14世紀には足利義満の姻族となった兼綱の子仲光とその子兼宣が室町殿義満・義持らの家司・家礼を兼ね、兼宣は朝廷と幕府とを取り次ぐ、いわゆる「武家伝奏」の源流ともなりました。この地位は足利義教に仕えた兼郷、足利義政に仕えた綱光を経て、守光・兼秀らに伝えられ、兼勝は徳川家康の征夷大將軍補職と同時に武家伝奏となって、近世の朝幕関係の形成に関わりしました。

『広橋家旧蔵記録文書典籍類』は、日記・帳簿・受発給文書・故実書など、歴代当主の業務書類を主体とする史料群です。業務連繫という点で、朝廷・摂関家・武家・朝幕関係の実情を窺わせるものです。中世史料を主とし、古代史料・近世史料も含まれます。

政務や芸能に携わるイエは、故実知識や技能などに関わる記録を蓄積することでイエの存続を図ったことから、「日記の家」という視角でとらえられます。広橋家も、官人として、摂家・武家の家産官僚として、多くの記録や業務関係書類を作成・蓄積し、家業を支えるノウハウを集積しました。広橋家は中世になって新たに成立したイエです。記録・文書・典籍の作成・蓄積は、中世的なイエの形成・発展と不可分に結びついた営みでした。

広橋家中世・近世史料は、宮内庁書陵部・明治大学博物館・東京大学史料編纂所などにも分かれて架蔵されています。これらのうち、近代に入って広橋家から岩崎家に移り、東洋文庫に架蔵されたものが『広橋家旧蔵記録文書典籍類』と呼称される一群です。史料写真で約 23,000 コマ、成巻数で 993 件の膨大な史料群です。大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（以下、「歴博」と略記）の所蔵するところとなって、同館の架蔵番号「H-63」にまとめて登録され、現在に至ります。

本史料群には歴代当主の日記が多く、重要史料として定評があります。経光の『民経記』は『大日本古記録』に収められて刊行されました。兼仲の『勘仲記』は、九条家本を底本として『増補史料大成』に収められ、その後、歴博所蔵自筆本などを底本とする翻刻が『史料纂集』に収められ刊行継続中です。兼宣の『兼宣公記』も『史料纂集』に収められて刊行継続中です。綱光の『綱光公記』は、歴博所蔵本などを底本として翻刻と紹介が進められています。守光の『守光公記』も『史料纂集』に収められ、刊行継続中です。

歴博の所蔵する『広橋家旧蔵記録文書典籍類』には、上に記した以外の歴代当主の日記に加えて、個々の日記の記述と深い関係にある業務書類や故実書などが多く含まれています。これらを検討することによって、より深い理解が得られると期待されるゆえんです。

#### 【本目録作成の意図と作成要領について】

本目録は歴博の所蔵する史料群『広橋家旧蔵記録文書典籍類』に含まれる記録・文書・典籍の史料目録です。2019年3月29日、現所蔵者である歴博から、それぞれの成巻ごとに史料呼称・形態・記載範囲・奥書などの客観データを調査・記載した公式目録『国立歴史民俗博物館資料目録〔13〕 広橋家旧蔵記録文書典籍類目録』が刊行されております。この歴博刊行目録を補い、検索性を向上させる関係にあるのが、本目録です。

学習院大学文学部は、2002年に歴博から『広橋家旧蔵記録文書典籍類』全ての写真の頒布を受け〔非公開〕しました。2003年度から学習院大学人文科学研究所共同研究プロジェクト〔研究代表者:家永遵嗣〕として調査を続けて参りました。「日記の家」としての広橋家におけるノウハウの形成・蓄積過程を、著述・筆写活動から窺うという視点から、各成巻ごとに歴代当主の関与をみる形で観察しました。本目録はこの調査の成果です。

この調査では、各成巻の状態を観察し、著述ないし筆写した時期や関与した当主を窺う手がかりとなる記述を抽出しました。歴博架蔵本の表紙には、岩崎文庫に収蔵される際に調査者が付したとみられる「某筆」などの注記があります。本目録でもこれを尊重しておりますが、各成巻の内部徴証や紙背文書等から手がかりを検出することに努めました。成巻全体993件のうち、65部弱について関与した当主を確定ないし推定しております。

中世において各当主が関与した成巻の数を数えますと、次に示すように、おおよそ754件となりました〔同一成巻に複数当主の重複関与あり〕。なお、この計算では、誰が集成したのか必ずしもはっきりしない古文書の集成物〔古文書集〕を除外しております。

本人の日記が伝わらない場合でも、先人の日記を補修・書写・目録採取したケースがあり、日記以外にも、帳簿・古文書集・故実書などに活動の痕跡が窺われるのです。

頼資 26件	経光 98件	兼仲 87件	光業 47件
兼綱 35件	仲光 21件	兼宣 102件	兼郷 26件
綱光 78件	兼頭 13件	守光 90件	兼秀 99件
国光 20件	兼勝 12件	〔以下、近世の当主は省略〕	

もとより、本目録は各成巻の精密な検証が行われる過程における、中間的な調査報告です。膨大な史料群のうちから、検討するための手がかりのある成巻を優先して検出するという便宜があると考え、歴博の許可を得て公開します。デジタル・データの形態ですので、「任意の成巻が、どの当主によって作成され、書写されたのか」「任意の当主が、どの成巻に関わったのか」を探る糸口にしていただいただけと考えます。該当する史料の多くは、その史料画像を歴博の公式サイトにて閲覧できるため、歴博に足を運ぶ前に、検索結果を確認する便宜があることを付言いたします。ただし、本目録における各成巻への関与の判断と、該当する当主の伝記との関係を照合する作業は十全ではありません。利用なさる方は、上記の事情をよく理解し、吟味してご利用くださいますようお願いいたします。

なお、2020 年度から 3 年計画で、歴博共同研究基盤研究 2 『『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究』〔研究代表者:家永遵嗣〕の実施が予定されております。当該プロジェクトでは、広橋家各当主について、伝記と関与した史料との関係を検証することも予定されています。本研究所でも、上記プロジェクトの成果を踏まえて、本目録の改訂版を作成・公開する予定であることを付記いたします。

また、次にご説明する仕様・凡例につきましても、なお不整合な点があることをご海容ください。引き続き考証につとめるとともに、さらに形式の統一を図ります。

本目録の著作権はプロジェクトの参加者〔このテキストの末尾に記載〕に帰属し、版權は学習院大学人文科学研究所に帰属します。本目録の利用者が適宜改変して活用されることを妨げませんが、本目録自体の再配布にあたっては、学習院大学人文科学研究所の配布する状態で流布するようにお願いいたします。是正を要する点を発見された方は、次に記載する本研究所メール・アドレスに対してご教示いただけますと、幸甚に存じます。

〔学習院大学人文科学研究所 共同研究プロジェクト宛メールアドレス〕

rihumpj@gakushuin.ac.jp

#### 【本目録の仕様】

本目録は、国立歴史民俗博物館から公開の承認を受けた下記の項目で構成されています。〔エクセル・データでは左から右へ、①～⑰の順で表示／凡例は後述〕。

- ①歴博架蔵番号            ②当主キーワード〔作成・受給・筆写に関わった当主の名〕
- ③記録通称〔日記の呼称として一般に通用している呼称〕
- ④東洋文庫タイトル〔かつて東洋文庫に架蔵されていた当時の史料呼称〕
- ⑤外題            ⑥内題            ⑦歴博文献名〔歴博刊行目録に登載された史料呼称〕
- ⑧細目名〔⑦が古文書群の総括呼称である場合、包含する個々の文書の呼称を記載〕
- ⑨文献種〔記録・古文書集・故実書などの区別〕
- ⑩記載主題〔記録・典籍の記載内容ないし古文書集における全体的な内容〕
- ⑪原本編著者〔史料が現状になる以前の、がんらいの編著者〕
- ⑫記載年代〔⑩の内容があてはまる年代〕            ⑬記載年代（西暦）〔⑫の整列キー〕
- ⑭広橋本作成者〔史料を筆写して歴博本の現状の姿にした者〕
- ⑮広橋本作成時期〔歴博本の現状の姿になった年代〕
- ⑯広橋本作成時期（西暦）〔⑮の整列キー〕
- ⑰特記事項〔年代ないし当主の判定に関係するとみられる情報の注記〕

まず、本目録の特徴である、②当主キーワード、および⑪～⑰についてご説明します。

歴博目録では史料群の各構成要素についての客観データの提供が主任務とされ、個々の史料の考証という主観的な判断が関わる点については、利用者にこれを委ねております。

既述の通り、本プロジェクトでは「個々の成巻が、どの当主によって作成され、書写されたのか」を調査し、②を記載しました。これが、本共同研究プロジェクトの主たる成果

です。⑰特記事項には、判定に寄与すると考えられる内部徴証や紙背文書の情報、また、他の史料から得られる関連情報を、気づくことのできた限りで記載しております。

当該史料の内容に⑰特記事項の所見を加味し、⑱記載年代を推定して⑪原本編著者を記載しました。また、⑤外題に記される東洋文庫収蔵時の筆跡判定「某筆」記載と⑰とを勘案して、⑮広橋本作成時期を推定して⑭広橋本作成者を記載しております。②当主キーワードはこれらの総合所見です。成巻ベースでおおよそ 65 冊弱について、「任意の当主が、どの成巻に関わったのか」ということを確認・推定しました。残る 35 冊強については、手がかりが乏しいため、関与した当主を特定することが難しいというのが実情です。

②当主キーワードが、「任意の成巻が、どの当主によって作成され、書写されたのか」「任意の当主が、どの成巻に関わったのか」を探る糸口になります。これを⑨文献種・⑱記載年代・⑲記載年代（西暦）・⑮広橋本作成時期・⑯広橋本作成時期（西暦）等とあわせ用いることで、次のような検索・整列処理が可能になります。

α．当主毎に絞り出し検索したうえで、各当主の活動を時系列に沿って観察できます。

β．史料の性質毎に絞り出し検索したうえで、制度について通時的に観察できます。

ただし、できるだけ多くの成巻について確認・推定することを試みたため、考証が不安定な場合もあることをお断りいたします。なお精査する余地があるということです。

次に、歴博目録との異同がある、①歴博架蔵番号・⑦歴博文献名・⑧細目名についてご説明します。

当該史料群には、業務に関わる文書を受給直後か後世においてか、いずれかの段階でまとめて文書集に成巻したものが数多く含まれております。

これらについて、歴博の調査では、原文書である「正本」の調査に注力したと仄聞しております。前述した歴博目録では、年紀や受給者の判然としない女房奉書をはじめとして、本プロジェクトの調査者が調書採取を断念した文書についても⑧を詳しく記載しております。これを踏まえて、本目録の①⑦⑧については、原則的に歴博目録の記載を踏襲しております。本プロジェクトでは判断しきれなかったものについて、歴博目録の成果をそのまま記載している場合があるということです。

いっぽう、本プロジェクトでは、関与した当主の検出に重点を置いたため、歴博目録には記載されていない写し「案文」についても、できる限り⑧細目名に記載するようにしました。ただし、力量と所要時間との関係から、該当する全成巻について⑧を記載するに至っておりません。②⑪⑭を検証しつつ、未記載部分の解消について検討します。

上記の結果として、本目録の①歴博架蔵番号・⑧細目名については、歴博目録に枝番号を付して記載していないものについても、①では[-1]のように歴博架蔵番号に付加する枝番号を付して、⑧細目名を記載しています。例示すると、次の要領です。

歴博目録と一致する場合      歴博架蔵番号 001-1      細目名は歴博目録と同じ

歴博目録に記載なき場合      歴博架蔵番号 072 [-1]      細目名は本目録独自記載

また、⑦歴博文献名・⑧細目名については、歴博目録の刊行以前から歴博側担当者と意思疎通を図って、歴博目録の記載と本目録の記載とを一致させるように努力いたしました。しかしながら、目録の刊行準備中に歴博においてさらに検討を進められた結果、準備段階と刊行時とで異同が生じている場合があります、いまだ目録同士で完全に整合していない場合があることをお断りいたします。2018 年～2019 年度に本目録の公開準備過程で整合をとるように努力し、①については前記の原則で整合させておりますが、⑦⑧につきましては、いまだ完璧ではないものがあります。追って、検査して再改訂する予定です。

## 【凡例】

本目録のプロジェクト研究成果として記載したすべての項目について共通の点として、「写本」と記す場合、印刷物に対する概念としての「手書き本」の意味ではなく、自筆原著に対する概念「転写本」〔再転写を含む〕の意味で記しています。ご注意ください。

### ①歴博架蔵番号

歴博架蔵番号のうち、「H-63-」は省略し、第 3 レベル以下を表記しています。半角アラビア数字 3 桁で、枝番号（第 4 レベル以下）は半角アラビア数字で表記しています。

既述の通り、歴博目録に⑧細目名が記載されていないものについては、歴博目録の番号に続けて、新たに独自の枝番号を付して、[-1] のように記載しています。枝番号は「[]」（きっこうカッコ）で括り、ハイフンは「[]」内に半角で記載しています。

### ②当主キーワード

関与した当主を確定できたと考えるものについては「藤原兼宣」、推定したものについては「藤原兼宣カ」、という形で記載しております。

広橋家は時代による家名の変遷が著しく、一時日野家を相続して「日野」を称していた兼郷の例もあるため、家名ではなく氏の呼称「藤原」で統一しています。ただし、調書採取時の作業原則では、歴史的に実際に使用されていた家名で記載することにしてきたため、②以外では、「藤原」に統一されていない記載を残している場合があります。

前記の通り、古文書の集成物に含まれている一点一点の古文書についても、受発給に関わった当主の名を記載しております。このため、②当主キーワードの出現回数がそのまま「当該当主の関与した成巻の数」と一致するわけではありません。ご注意ください。

### ③記録通称

「当主実名」に「公記」「卿記」を付す原則で記載しておりますが、一部に『民経記』『勘仲記』のような、人口に膾炙している記録名で記載している場合があります。追って、整合させるか否かを検討します。

### ④東洋文庫タイトル

東洋文庫目録における大文字記載箇所を採録しています。

⑤外題／⑥内題

外題・内題の記載どおりに採録しています。

⑦歴博文献名／⑧細目名

歴博より 2019 年 3 月 29 日に刊行された目録『国立歴史民俗博物館資料目録 [13] 広橋家旧蔵記録文書典籍類目録』に準拠しております。既述の通り、歴博目録が細目名を付していないものについては、独自に史料名を付与している場合があります。一部に歴博目録の命名と一致していない記載がありますが、追って整合するように改めます。

⑨文献種

当該史料の種類を、「記録」・「記録抄出」・「文書」・「文書集」・「故実書」・「部類記」などに分類して記載しています。

⑩記載主題

当該史料の記載内容の主題を、名詞相当語句または文章で記載しています。日記の類の場合は、「日次記」と表記しています。

⑪原本編著者

当該史料の原本を編集または著作した人物を記載しています。判明しない場合は、「不明」と表記しています。当該史料が部類記の場合は、その編者を記載しています。また、当該史料が記録からの抄出の場合は、抄出対象記録の記主を記載しています。

⑪原本編著者は、必ずしも広橋家の当主だけではないので、ご注意ください。

⑫記載年代

当該史料に記載されている儀式などの事象が発生した年代を、和年号を用いて、年月日をわかる範囲で記載しています。判明しない場合は「不明」と表記しています。改元との関係について、記載が不統一である場合がありますのでご注意ください。

⑬記載年代（西暦）

記載年代の年次の西暦年を半角アラビア数字で表記しています。公刊されている日本史年表の一般的な記載に従い、ユリウス暦・グレゴリオ暦との照合は行っておりません。

⑭広橋本作成者

歴博架蔵本が転写本である場合に、その作成者を記載しています。当該史料が転写本からの再写本であるなど、他の転写情報が判明する場合は、それは本項目には記さず、⑰特記事項において記しています。

歴博所蔵広橋本の現在の姿になる原因者を確認・推定できる限りで記載しております。その人物は必ずしも広橋家の当主とは限らない、という点にご注意ください。

⑮ 広橋本作成時期

歴博架蔵本が転写本である場合に、その作成時期を記載しています。当該史料が転写本からの再写本であるなど、他の転写情報が判明する場合は、それは本項目では表記せず、⑰特記事項に記しています。転写した者が複数人確認・推定される場合も同断です。

⑯ 広橋本作成時期（西暦）

転写した時期の年次の西暦年を半角アラビア数字で表記しています。公刊されている日本史年表の一般的記載に従い、ユリウス暦・グレゴリオ暦との照合は行っていません。

⑰ 特記事項

当該史料に関する情報全般。他項目の情報の根拠を示す考証や、奥書の引用、その他、関係史料との照合結果など、調査企図に即して有用と思われる情報を採録しています。

【補／人文科学研究所共同研究プロジェクト「古代中世公家史料の研究」の経緯と参加者】

2003 年～ 2005 年度「古代中世公家史料の研究」〔研究代表者:家永遵嗣〕

歴博から頒布された『広橋家旧蔵記録文書典籍類』写真帳全成巻につき、関与した当主の割り出しに重点を置いて調書を作成し、エクセル・ファイル形式によりデータ入力しました。当該目録を公開する予定でしたが、検索条件の統一を図って検索具としての整備をはかる余地があることが判明したこと、歴博より公式の目録が公刊される予定であること、を踏まえて、上記を改修したうえで公開することにしました。

〔以下、肩書き・姓は当時のもの〕

共同研究プロジェクト研究員

家永遵嗣（学習院大学文学部助教授）  
鐘江宏之（学習院大学文学部助教授）  
松岡心平（東京大学大学院総合文化研究科教授）  
末柄 豊（東京大学史料編纂所助手）  
高橋秀樹（文部科学省初等中等教育局教科書調査官）  
五島訓代（宮内庁書陵部編修課）  
田村 航（元学習院大学文学部助手・国立小山工業高等専門学校非常勤講師）

調書作成・目録データ入力班

家永遵嗣（学習院大学文学部助教授）  
田村 航（元学習院大学文学部助手・国立小山工業高等専門学校非常勤講師）  
田中大喜（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程）  
湯原紀子（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程）  
甲斐玄洋（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程）

2018 年～ 2019 年度

「国立歴史民俗博物館所蔵『広橋家旧蔵記録文書典籍類』データベース化の研究」

〔研究代表者:家永遵嗣〕

歴博刊行の前記目録『国立歴史民俗博物館資料目録 [13] 広橋家旧蔵記録文書典籍類目録』を踏まえて、すべてのデータについて史料写真に基づいて検証しました。

また、検索具としての有効化を図るために、前記②項目を付加しました。

共同研究プロジェクト研究スタッフ〔2018 年度〕

家永遵嗣（学習院大学文学部教授）

佐藤雄介（学習院大学文学部准教授）

田中大喜（国立歴史民俗博物館准教授）

甲斐玄洋（佐伯市歴史資料館学芸員）

水野圭士（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻科目等履修生・R.A.）

工藤祐一（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程・R.A.）

小口康仁（学習院大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士前期課程・R.A.）

野里顕士郎（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

熊谷すずみ（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

大山公佑（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

渡辺佑里乃（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

共同研究プロジェクト協力者

田村 航（明治学院大学非常勤講師）

データ②採録入力・全項目形式整合作業班〔2018 年度〕

水野圭士（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻科目等履修生・R.A.）

小口康仁（学習院大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士前期課程・R.A.）

工藤祐一（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程）

野里顕士郎（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

熊谷すずみ（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

大山公佑（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

渡辺佑里乃（学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程）

データ①～⑰再検証班〔2018 年～ 2019 年度〕

家永遵嗣（学習院大学文学部教授）

田村 航（明治学院大学非常勤講師）

田中大喜（国立歴史民俗博物館准教授）

甲斐玄洋（佐伯市歴史資料館学芸員）

本目録の著作権は上記の共同研究プロジェクト参加者に帰属し、著作権は学習院大学人文科学研究所に帰属します。内容の誤謬等の責任は研究代表者の家永遵嗣にあります。

以上